

令和4年度 白鳩チルドレンセンター南丘事業報告

1. 概要

①運営方針

- 少子化問題が懸念される中、年初の予定通り 187 名の園児を確保することができました。1 号認定児童は定数 15 名に対し 11 名での開始となりましたが、5 月に 2 名の受け入れを行い 13 名の確保となりました。次年度は 1 号認定児の定員を満たし、園児や保護者、地域の信頼を得る園として努力を続けてまいります。
- 保育教諭・保育士の人材確保に苦慮している現状の中、新卒 1 名・既卒 5 名、計 6 名の採用に至りましたが、年度途中で看護師を含め 5 名の退職者が発生し、職員配置が厳しい状況となり補助金確保にも影響が生じました。今後は、早い時期から人材確保のために動き、余裕を待った採用を行うと共に、離職者を出さないための新任職員の育成システム作りなどを進めます。
- 「1 日の保育の流れ」を活かすことができず、その場限りの活用となっていました。再度「1 日の保育の流れ」と「チェックリスト」を作成し、保育の現場で活用できるものにします。
- 乳児連絡ノート、登降園管理、各種おたよりや連絡メールの配信などを「child care web」システムに統一し、ICT 化とペーパーレス化を進めます。
- 経年劣化の 2 階保育室エアコン 9 台の入替を行いました。次年度は 1 階保育室 5 台の入替を予定しています。また、園舎内外に劣化が見え始めているため、計画的に修繕を行っていきます。
- 年度後半の行事は様々な規制を緩和して実施することができました。今後はコロナ禍で得たことを活かしながら、新たな行事の在り方を検討し実施していきます。

②定員 172 名 (1 号認定児 15 名 2 号認定児 90 名 3 号認定児 67 名)

在籍園児数：1 号認定児 13 名 2 号認定児 104 名 3 号認定児 70 名
合計 187 名

③事業日数 293 日 (日曜・祝日及び 12/29～1/3 は休園)

④開園時間 平日・土曜 7:00～19:00

⑤保育時間

★2 号・3 号認定児

平日		土曜	
標準時間保育	7:00～18:00	標準時間保育	7:00～18:00
短時間保育	9:00～17:00	短時間保育	9:00～17:00
延長保育	18:00～19:00	延長保育	18:00～09:00

★1 号認定児

平日・早朝保育	7:00～ 9:00	通常保育	9:00～14:00
預かり保育	14:00～19:00		

⑥職員数

園長 1 名、主幹保育教諭 2 名、保育教諭 30 名（うちパート・派遣職員 5 名）
看護師 1 名、教育・保育補助 3 名（パート・派遣職員）、園務員 1 名、
給食委託事業者からの派遣栄養士 1 名、派遣調理員 3 名、学校医 1 名
学校歯科医 1 名、学校眼科医 1 名、学校耳鼻咽喉科医 1 名
薬剤師 1 名（年間 6 回環境衛生検査）

2. 教育・保育運営

①教育・保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う子ども社会の中で成長する事が望ましいと考えます。
- 私たちは子どもの個性・人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

②教育・保育方針

- 社会福祉法人白鳩会保育メソッド・一日の保育の流れを中心に、子どもたちが主体的に生き生きと生活・活動できる環境を整え、自己を十分発揮し人として「生きる力」を育む。
- 在園児および地域の子育ての支援を行う。
- 愛着関係を確立させ、子どもとの継続的な信頼関係を築く。

③教育・保育目標

- 乳児期の愛着関係を基盤とし、認知能力（記憶、計算、判断、決定、言語理解など）と非認知能力（意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、思いやり、自己肯定感）を育む。

④クラス編成及び職員配置

0 歳児	ひよこ組	15 名	保育教諭	5 名
1 歳児	りす組	25 名	保育教諭	5 名
2 歳児	うさぎ組	30 名	保育教諭	6 名（うち障がい児加配保育教諭 1 名）
3 歳児	くま組	40 名	保育教諭	4 名（1 号認定 5 名 2 号認定 35 名） （うち障害児加配保育教諭 1 名）
4 歳児	ぞう組	40 名	保育教諭	3 名（1 号認定 5 名 2 号認定 35 名）
5 歳児	きりん組	37 名	保育教諭	3 名（1 号認定 3 名 2 号認定 34 名） （うち障害児加配保育教諭 1 名）

合計園児数	187 名	保育教諭	25 名
一時保育担当保育教諭		1 名	
預かり保育担当保育教諭		1 名、	
地域子育て担当保育教諭		2 名（うちパート職員 1 名）	
朝夕延長保育担当教諭		2 名	

⑤教育・保育内容

- 各年齢の「1日の保育の流れ」を軸に、保育を行うことを目指していましたが、実際は活かすことができず、ただ定期的な反省と振り返りを行うだけになっていたため、次年度は「1日の保育の流れ」と「チェックリスト」を新たに作成し、実際に活かすことのできるものにしていきます。
- 乳児は担当制、幼児は少人数グループでの保育を行う意味を保育者間で共通理解しながら、子どもが落ち着いて遊びを楽しんだり、生活できる保育を大事にすることができました。次年度は職員の入替わりがあるため、また新たに乳児、幼児の保育についての共通理解を深めていきます。
- 毎朝の「じゃれつき遊び」や保育者の愛情豊かな関わりが、子ども達の成長に大きな影響を与えることを理解し、概ね大切にすることができました。しかし、時には不適切な関わりをしてしまう保育者もいたため、引き続き園長、主幹保育教諭が伝え続け、子ども達との愛着関係を築きま
- 子どもが主体的に考え行動できるように、保育者が必要以上に援助をせず、子どもにじっくりと向き合いながら待つことを大切にされた保育を進めましたが、まだまだ保育者の都合で待つことができない場面も多かったように思います。今後も引き続き待つ保育を大切にします。
- 今年度は昨年度の反省を踏まえ、安田式遊具を使った運動遊びや、リトミックなどの取り組みを計画に余裕をもって進めることができました。そのため、年齢の壁を越えて個々ができることを伸ばすことができました。これからも、年齢ごとの課題にとらわれることなく、取り組みを進めます。
- 生活の中で褒められたり、認められる機会を見つけ、自己肯定感を持てるよう一人ひとりの長所を伸ばす関わりを大切にしましたが、褒めることが苦手な保育者もいました。保育者自身が褒められる経験があまりなかったり、自己肯定感が低いのかもかもしれません。今後は子ども達と共に、保育者自身の自己肯定感を上げるのが課題です。
- 配慮が必要な子どもについて、ミーティングや職員会議などで理解を深め、クラスに関わらず職員全員で見守ることができました。そのため、一人ひとりに合わせた関わりができ、結果各クラスが落ち着いたように感じます。しかし、年々配慮が必要な子どもや、関わりが難しい子どもが激増しているため、今後も園全体で関わり方や対応について検討していきたいと思
- 各年齢公園や車庫、小学校など様々な場所に散歩に出掛け、五感を使い自然に触れる機会をたくさん持つことができました。次年度も引き続き、子どもの心と体を動かす活動を楽しみます。
- 今年度も、「豊中市人権保育基本方針」に基づき、「種をまこう」「ヒューマンライツカレンダー」を利用しながら、人権を大切にする教育、保育を行いました。更にSDGsの取り組みなどを行い、子ども達の非認知能力を伸ばす取り組みを行っていきます。

⑥家庭との連携

- 保護者に対して「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さを啓発し、家庭と連携しながら生活リズムを整えることを意識しましたが、相変わらず朝ごはんを食べずに登園する子どもや、夜遅く寝るため朝が起きられず機嫌が悪い子どもがいました。引き続き取り組みを進めます。

- 教育・保育の取り組みについて、クラス懇談会、個人懇談、就学前個人懇談で知らせると共に、成長した姿と課題の部分を保護者と共有しました。できるようになったことだけではなく、特に課題の部分を伝えることを意識しました。
- 送迎時の会話や、乳児連絡ノート、面談などによる保護者とのコミュニケーション、ドキュメンテーションなどを用いて、生活や遊びの内容とねらい、子どもの成長を可視化して保護者に分かりやすく伝えることができました。次年度は乳児連絡ノートを電子化します。
- 園だよりや新入園児説明会、クラス懇談会の場を使い、教育・保育理念、方針、目標、事業計画などについて、保護者に向けて丁寧に説明を行いました。おたよりなどは今後メール配信に切り替えます。
- 昨年に引き続き1名の要保護対象児童の見守りを行いました。池田こども家庭センターと豊中警察、豊中市子ども未来部と連携を図りながら対象児の支援を行いました。
- 支援が必要な子どもについては、豊中保健センター・池田こども家庭センター・豊中市の支援チームと連携を図り、特に支援が必要な1名はモニタリングシートを作成し関係機関で共有しながら対応を行いました。支援が必要な子どもが安心して生活を送ることができるように、園長、主幹保育教諭、担任が支援を継続させていきます。
- 園長、主幹保育教諭が窓口となり、卒園、転園後の子どもと保護者を見守るための相談窓口を開き、いつでも相談できる環境を整えました。今年度は2件の相談があり対応しました。

⑦人材育成

- 白鳩会保育メソッドについて、「1日の保育の流れ」を使って園内研修を行い、全保育者で学ぶ機会を持ちました。しかしその学びがその場限りになっており、実際は活かさきれていませんでした。その場限りの園内研修にさせないために、今後の研修内容などについて熟考していきます。
- 「1日の保育の流れ」を使い、新任職員に丁寧な指導を行うことで、新任職員と指導保育者の双方が学ぶ機会を持ち、リーダー育成にも繋げることを目的としていましたが、活用したのは最初だけとなってしまいました。「1日の保育の流れ」を常に使い、活用していくものにしていけるように改善を行います。
- それぞれの経験や担当年齢などに合わせた保育の専門性を伸ばすために、園外での研修やリモート研修、キャリアアップ研修に積極的に参加することができました。
- 嘔吐処理方法、救命救急、エピペンの使用方法などを午睡時や職員会議で行い、職員間で共通理解することができました。いざという時に慌てず対応することができるように、今後も学ぶ機会を持ちたいと思います。
- 園全体と保育者の質の向上を図るために、「自己評価」や「豊中市教育保育環境ガイドライン」において評価を行いました。しかし、「豊中市教育保育環境ガイドライン」は、できている、できていないのチェックのみになっており、具体的な評価からの考察ができないため、より具体的な自己評価のできる、認定こども園の「自己評価ワークシート」を活用していきます。
- 自己評価とチェックシートを使った教育、保育の振り返りを基に園長と面談を行い、個々の課題について考え教育・保育の質の向上に繋げました。

⑧地域の実態に対応した事業

1. 地域子育て支援事業

- 地域との関わりを活発にするために、地域の就学前施設や小学校との交流、消防署、各種商店、人との交流を広げることを目標にしましたが、今年度は地域との新しい関わりのはりはありませんでした。地域交流については、今後も課題として取り組んでいきます。
- 園庭開放（計21組）の実施や、プール開放（年3回・計16組の親子）を行い、地域の親子の交流の場として支援を行いました。「みなみおかであそぼう」はコロナのため中止しました。
- 子育て交流の場として、地域の親子を対象に「いちごサークル」（年10回・計10組）を実施し、親子で一緒に楽しめるプログラムを計画し、“ほっとできる居場所”を提供しました。
- 乳幼児連れの地域の親子が安心して外出できるように、授乳やオムツ交換が可能なスペースを設置して「赤ちゃんの駅」として施設を開放しました。地域の方の利用は5件です。
- 地域の方にとって身近な施設として、園長、主幹保育教諭、地域貢献支援員（スマイルサポーター）、看護師を中心に、育児相談や情報の提供及び助言を行いました。今年度の相談件数は1件のみでした。
- 校区福祉委員会主催の子育てサロン“ももちゃん”の出張保育、老人施設“永寿園”でのクリスマス会に出向き、地域の民生児童委員の方と一緒に活動を行いました。

2. その他の事業

- 豊中市内各17校区別に保幼小連絡会を行い、南丘小学校区と、東泉丘小学校区の2つの連絡会に参加し、教職員が共に学ぶ中で情報の共有を行いました。夏季には、豊中市内の保幼小合同で夏季研修を行い、共に学ぶ機会を持ちました。
- 5歳児が、地域の小学校1年生との交流会に参加し、校内見学、授業への参加を体験したことで、就学に期待を持つことができました。今年度は東泉丘小学校へ5歳児全員で出掛けると共に、他の小学校へは、各自で保護者と共に参加しました。
- 地域福祉への協力と子育て支援員として自園での就労に繋げることを目的として、子育て支援員養成のための見学実習園となり、1名の実習生の受け入れを行いました。昨年実習に来た実習生は、夕方の子育て支援員（パート職員）として就労に繋げることができました。
- 中学校の地域体験学習「CUL」として9中、15中の学生の受け入れ、保育士養成校の実習生4名の受け入れを行いました。今後も地域や行政、養成校との連携を深めます。
- 「地域福祉ネットワーク」や「小学校区連絡会」に参加し、豊中市北東部の福祉に携わる施設や団体、また民生委員、児童委員と連携を図り、地域の子育てについて情報交換を行いました。今後の地域交流の足掛かりとなるよう、次年度も参加を予定しています。
- 東豊中図書館との交流を図り、園児の団体貸し出しや、団体向け図書リサイクルの利用、図書館司書との交流などを考えていましたが、コロナの影響で交流できませんでした。令和5年度は交流を進めたいと考えます。

⑨苦情処理

- 「意見箱」を設置し、保護者からの意見、要望を受け付けました。意見、要望には概ね24日時間

以内に対応し、掲示板へ回答書を貼り出し、協議中のものについては随時経過報告をしました。
今年度は1件の投書があり、対応を行いました。

- 第三者委員2名の設置を行い、苦情解決責任者を園長、苦情受付担当者を主幹保育教諭として苦情解決に努めるシステムを作っていましたが、苦情はありませんでした。
- 苦情解決システムについては、ガイドブックや新入園児説明会、クラス懇談会などで保護者に周知し、いつでも活用してもらえる体制を整えました。
- 苦情や意見は真摯に受け止め、「園内における問題点（苦情処理）事例と経過」にまとめ迅速な対応を行いました。問題点は職員間で共通認識し、同じことを繰り返さないように努めました。

⑩リスクマネジメント

- 感染症が出た場合は、法人の感染症マニュアルに基づき、迅速に動けるように保育者間で共通認識し、感染症対策として、手洗い、うがい、室内の換気、消毒などを徹底しました。
- 子どもが安全、安心に散歩に出掛けることができるように、園周辺や公園などの危険箇所を記載した危険マップを確認し、散歩時の事故防止に努めました。また、新しい職員は事前に散歩先の下見に行くなどしました。
- 怪我や事故を未然に防ぐために、ヒヤリハットの取り組みを進めましたが、ヒヤリハットが活かされず、ただ用紙を記入するだけになっていたように感じます。ヒヤリハットの意味を再度職員間で確認し、取り組み方法を検討し意味のあるものにしていきます。
- 毎月1回備蓄品や防災マニュアルの確認を行い、職員間で情報の共有を行いました。備蓄食料品は給食室と連携し、消費期限内に給食メニューとして食べることができました。
- 災害発生時やその他緊急時には、保護者に対して迅速にモバイルメール配信システムを使うことができました。次年度からは、CHSのアプリを利用した連絡方法に移行します。
- 豊中市消防署の救命救急講習を全職員が受講し、緊急時に備えることができました。講習では、感染症が発生した場合の対策方法や、SIDS対応、心肺蘇生法（AEDの使い方）なども学ぶことができました。
- 「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」の内容を全職員で確認し、共通理解を図りました。また、食物アレルギーによる発作が起こった時の緊急薬（エピペン）について全職員で薬の保管場所や使用方法について把握するための研修を行いました。
- 豊中市消防署、警察署と連携しながら、総合避難訓練や救命救急講習、交通安全指導、不審者対応講習を実施しました。

⑪物品購入並びに補修費支出

- 2階保育室エアコン9台入れ替え（坂本電気設備） 4,240,478円